

# 平成 27年度 特色検査(自己表現検査)問題

検査時間 50 分(9:20～10:10)

## 【注意事項】

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 問題は問 5 まであり、1 ページから 11 ページに印刷されています。
3. 検査中に問題冊子・記述用紙等を、切ったり折ったりしてはいけません。  
また、印刷不鮮明や汚れ等に気づいた場合は、手をあげて監督者に知らせてください。
4. 記入にあたっては、鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
5. 監督者の指示により、問題冊子と記述用紙に受検番号・氏名を記入してください。
6. 答えはすべて記述用紙の決められた欄<sup>らん</sup>に記入してください。  
字数制限のある解答については、句読点等も字数に含みます。文字と句読点等は一緒にせず必ず一マスに一字ずつ書き、行頭や文末にきた句読点等も一マスに書きなさい。
7. 書き方や内容にかかわる質問には、いっさい応じられません。
8. 終了の合図があったらすぐに筆記用具を置き、記述をやめてください。
9. 問題冊子・下書き用紙は、検査終了後持ち帰ってください。

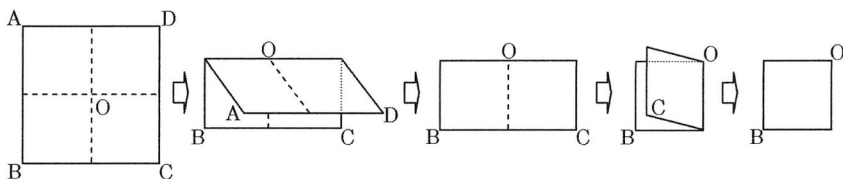
受検 番号		氏 名	
----------	--	-----	--

問 1 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、問題冊子・記述用紙等を切ったり折ったりしないこと。

方眼紙で作った正方形 ABCD があり、その中心(4点 A,B,C,D から等距離にある点)を O とする。この紙を次の **折り方 1**、**折り方 2** の方法で折ってから、はさみで一部を切り取り、それを開いて模様を作る。

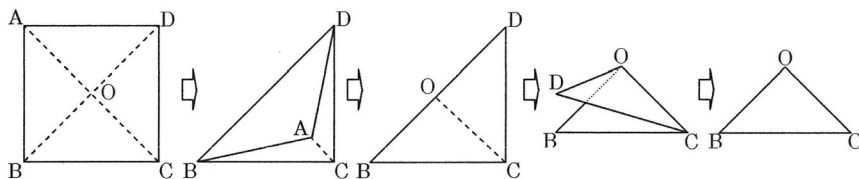
### 折り方 1

正方形の各辺の垂直二等分線で 2 度折って、元の大きさの 4 分の 1 の正方形にする。



### 折り方 2

正方形の対角線で 2 度折って、元の大きさの 4 分の 1 の三角形にする。



(ア) **折り方 1** で折り、図 1 のように斜線部をはさみで切り取り、開いたときの模様はどれか。次の①～④の中から**正しいもの**の一つを選び、その番号を書きなさい。

①



②



③



④

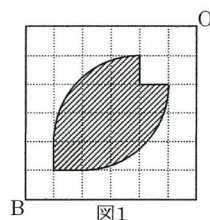


図 1

(イ) **折り方 2** で折り、図 2 のように 3 箇所の斜線部をはさみで切り取り、模様を作る。

その模様と同じ模様を、**折り方 1** で折った紙を切り取って作るにはどのように切り取ればよいか。切り取る箇所を記述用紙の方眼に斜線で塗りなさい。

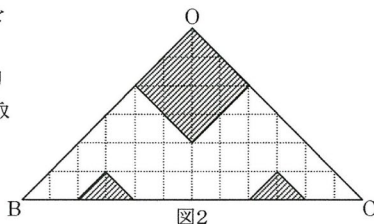


図 2

問2 次の説明文を読み、**資料Ⅰ** ～ **資料Ⅳ** を見て、あとの問いに答えなさい。

しんきろう

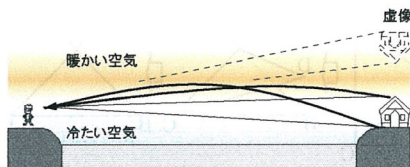
蜃気楼は、空気中で光が屈折して進むために5～20km離れた景色が実際とは異なって見える現象で、その見え方には大きく分けて2種類あります。一つは上位蜃気楼と呼ばれ、実際の風景の上側に縦に伸びたり反転したりした虚像（風景）が見えます。もう一つは下位蜃気楼と呼ばれ、実際の風景の下側に虚像が見えるので、島や船が浮かんで見えます。

下位蜃気楼はそれほど特別な条件が必要ではなく、地面や海面が暖められることにより、どこでも見ることができますが、上位蜃気楼はいくつかの条件が必要になります。富山湾東部の魚津市から対岸に見える上位蜃気楼が、決まった時期に見られるものとして知られています。

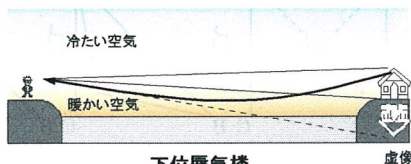
通常、地表付近の空気は高度が上がるにつれて気温は下がりますが、上位蜃気楼が起きるときには、この関係が逆転しています。高度と気温の関係が逆転するので、このような空気層を逆転層といいます。富山湾では、日中の陸地で暖められた空気が、海面にある冷たい空気の上に、海風によって流れ込み、逆転層ができると考えられます。

#### 資料Ⅰ

光は屈折して進むが、観測者には光が直進してきたように見える。



上位蜃気楼



下位蜃気楼

#### 資料Ⅱ



魚津市の観測地点から見た上位蜃気楼  
海岸付近の建物の伸びあがりや反転  
が見える。（下の写真は実景）



### 資料Ⅲ

下の表は、2014年（平成26年）に魚津市の観測地点から上位蜃気楼が観測できた日を表している。

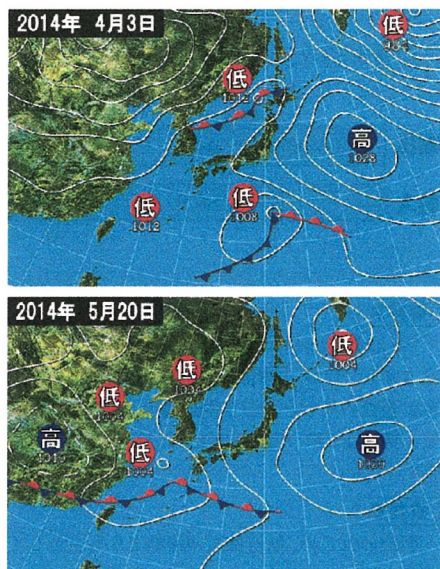
月	観測できた日
2月	なし
3月	28日、29日
4月	2日、3日、9日、16日 25日、26日、28日、30日
5月	14日、19日、20日、28日 30日、31日
6月	1日
7月	なし
8月	なし
9月	なし

写真および観測データは

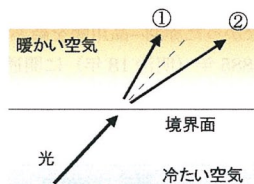
<http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>  
より作成

### 資料Ⅳ

下の天気図は、富山湾で上位蜃気楼が観測された4月3日と、5月20日のものである。



- (ア) 暖かい空気と冷たい空気の境界面があり、光がこの境界面で屈折して進むと考えることにする。右の図のように、冷たい空気から暖かい空気に向かって光が進むとき、どのように進むか。①、②の中から**正しいもの**を一つ選び、その番号を書きなさい。



- (イ) 次の①～④の文は、観測地点で上位蜃気楼が観測されやすい条件について述べたものである。**正しいもの**には○、**正しくないもの**には×を書きなさい。

- ① 観測地点で感じる風は弱い。
- ② 観測地点での風向きは、南からの風である。
- ③ 早朝から気温が高く、一日を通しての気温が変わらない。
- ④ 観測される時間は、早朝よりも昼ごろから夕方にかけてである。

- (ウ) **資料Ⅳ** に示した二つの天気図には、富山湾で上位蜃気楼が観測されやすい条件が共通して表れている。その条件を、季節的な気候の特徴を踏まえて、文末が「～こと。」（字数を含む）となるように、**25字以上、35字以内**で記述用紙に記入しなさい。その際、「**等圧線**」という語を用いること。

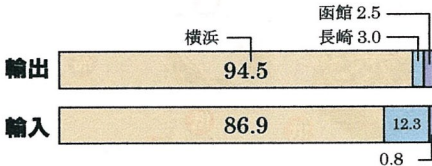


問3 次の **資料Ⅰ** ～ **資料Ⅲ** を見て、あとの問いに答えなさい。

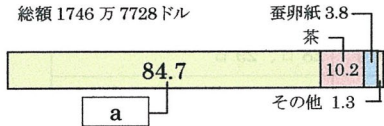
**資料Ⅰ**

次のグラフは1865年（慶応1年）時点の日本の貿易状況について示したものである。（単位は％）

[A] 取引された港



[B] 取引された商品（輸出品）



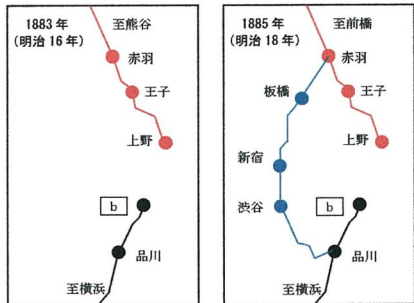
石井孝『港都横浜の誕生』より作成

**資料Ⅱ**

「たんす・ながもち質屋へ入れて、乗ってみたいな<sup>おかし</sup>陸蒸気」と歌われた日本初の鉄道が、1872年（明治5年）、**b**—横浜間に開通した。その後、全国に鉄道網が張り巡らされていったが、後の五大私鉄会社の一つとなる日本鉄道は、1883年（明治16年）に上野—熊谷〔埼玉県〕間で仮営業を開始し、翌1884年（明治17年）には、上野—前橋〔群馬県〕間の路線を開通させた。

**資料Ⅲ**

明治のはじめ、鉄道は人の移動よりも主として貨物の運搬に用いられた。そうした中、右に示したように、1883年（明治16年）には結ばれていなかった赤羽—品川間を結ぶ日本鉄道品川線が1885年（明治18年）に開通した。



(ア) **a** に当てはまる商品は何か。次の①～④の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きなさい。

- ① 銅 ② 生糸 ③ 漆器 ④ 米

(イ) **b** に当てはまる駅名を漢字で書きなさい。

(ウ) 日本鉄道品川線は現在のどの路線に発展したか。次の①～④の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きなさい。

- ① 山手線 ② 東海道線 ③ 総武線 ④ 常磐線

(エ) 赤羽と品川を結ぶ鉄道がつくられた最も大きな目的は何か。**資料Ⅰ** ～ **資料Ⅲ** を参考に10字以上、20字以内で記述用紙に記入しなさい。その際、「輸出」という語を用いること。

#### 問4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

『ダーウィンの悪夢』という映画はアフリカの「貧困」がどのように起こってくるかをよく示している。

南アフリカのタンザニア、ケニア、ウガンダにまたがる広大なヴィクトリア湖ではナイル・パーチと呼ばれる外来種の魚が繁殖し、在来種の中小魚の漁獲が激減している。このナイル・パーチは湖畔ムアンザのインド人経営の工場で白身魚の切身とされ、飛行機でヨーロッパ、日本に輸出される。インド人工場の売上げは伸び、GDPは上昇するが、反面、伝統漁法に頼る漁民は食べていけなくなり貧困化する。

この映画は、従来貧困が存在しなかったような静かな地方の町が、いかにしてグローバリゼーション、市場経済、開発にまきこまれ、貧困を生み出していくかを描き出している。タンザニアの一地方にとどまらず、南の世界のどこでも、現に起こっているような情景である。

たとえば東マレーシアのサラワク州では、いままで森林で採集や狩猟生活で暮らしていたダヤックと呼ばれる先住民たちが、森が切り開かれ、木材として輸出されたり、あるいは燃やされて値の上がつた植物油の原料となる油椰子の農園に変わることで食べていけなくなり、男は伐採労働者として日銭を稼ぎ、女性は町に出稼ぎにいく情景がここ二十数年続いている。それは、アマゾンの森林が焼き尽くされて大豆畑に変わることによって食べていけなくなった先住諸部族にとっても同様である。

いままで素朴な暮らしをしていても、誇りをもって自活していた人たちが、ある日生活の手段を奪われて“赤貧”状態に転落していく。そしてこのような木材、椰子油からつくられる食用油や化粧品、大豆、新燃料（石油の代用として大豆やトウモロコシを使う）を消費しているのは、先進国や途上国の大都市の購買力をもったわたしたちなのである。

貧困はけっして天然自然に存在するものではない。貧困は“つくられる”ものなのだ。このことはわたしたちが貧困を考えるとときにまず念頭に置いてよいことである。

ここで世界の「貧困」人口がどれくらいかをみておこう。世界銀行は「一日1ドル」以下の所得しか得ていない人口を貧困人口として計算している。これはわたしたちが「絶対的貧困」と呼んだ貧困であり、「所得貧困」といってもよい。

ここで一日1ドルといったのは、各国ごとに存在する通貨価値の差異を1ドルで購入できる基本的な衣食住関連必需品約40項目の購買力でならして計算した\*購買力平価ドルで、「実体価値」で示したドルといってもよい。四人家族とすると一月の収入約12,000円程度である。

この水準以下の貧困人口は1980年代前半に約12億人いたが、2005年には約11億人で、実はほとんど減っていない。

貧困レベルを一日2ドルとすると（一家の月収3万円弱）、貧困人口は24～28億人となり、なんと世界人口の三人に一人は貧困者ということになる。

だが、このような計算に落とし穴があることはすぐわかるだろう。二つの注意が必要である。

わたしは中国雲南省大理市の白族居住地域を訪ねたことがある。ここではGDPは一人当たり一日1ドルだが、農耕を基礎として、自給経済の上に民芸も盛んで、人びとは穏やかな暮らしを営み、どこの家にもカギがかかっていた。2003年にアカデミー・ドキュメンタリー賞を得たマイケル・ムーアは、アメリカのデトロイトでは人びとが家のドアに三重ものカギをかけているのに、対岸のカナダの町では誰も家にカギをかけていない事実を報告している。大理の白族居住地域の所得はカナダのその50分の1程度だが、暮らしの安全や平穏な生活という点ではカナダ並みの豊かさを享受し

ているのである。

それと裏腹に、日本の場合には貧困ラインは一日 1,670 円（1 人月 5 万円）で、三人家族で 5,000 円以下の収入で定職をもたない（定職をもつ場合には東京地域の最低賃金は一時間 736 円 [2006 年] なので、一日 5～6,000 円の収入を得ることになる）場合には生活保護の対象となり得る。

1,700 円というと、一日 1 ドルの十七倍の水準（アメリカもほぼ同様）だが、一日 17 ドルでも自分と家族の生活を支えることができないという問題が生じる。

だから実際には各国がそれぞれ貧困ラインを設定して、公的扶助の対象を決めており、「一日 1 ドル」という画一的なレートで世界の貧困問題を議論することはあまりに大ざっぱだということになる。

以上の(1)二つの注意を念頭に置いた上で、それにもかかわらず世界に貧困が<sup>こうほう</sup>広汎に存在することは事実なので、それを考える最初のステップとして、所得貧困によるアプローチを考えておこう。すると、世界の貧困が特定地域に集中していることがわかる。

表 世界の貧困人口 — 地域別分布（2004 年）

	(100 万人)	(%)	人口に占める貧困人口比率 (%)
東アジア・太平洋	169.13	17	9
(内中国)	128.36	13	10
東欧・中央アジア	4.42	1	1
ラテンアメリカ・カリブ海	47.02	5	9
中東・北アフリカ	4.4	1	2
南アジア	446.2	46	31
(内インド)	370.67	38	34
サハラ以南アフリカ	298.3	31	41
計	969.48	100	18

(出所) 世界銀行 計算の不整合は四捨五入による。

表は同じ世界銀行による貧困人口の地域別分布を示しているが、この表は初めから先進地域（北米、西ヨーロッパ、日本）を除外している。それは「一日 1 ドル」という絶対的貧困の水準が先進地域には当てはまらないと考えるからである。しかし、本当に先進地域で絶対的貧困は存在しないのだろうか？

この表でみると、世界で貧困人口が最も多いのは南アジア（46%）、サハラ以南アフリカ（31%）で、東アジア・太平洋地域にも 17%が存在する。そして、南アジア、サハラ以南アフリカでは人口の三～四割が貧困者であり、東アジア、ラテンアメリカでは約一割が貧困者である。

本来、南の世界は気候に恵まれ、資源も豊富で豊かな地域であるはずなのに、なぜ(2)世界の貧困は南の世界に集中しているのだろうか。その中でもなぜ南アジア、サハラ以南アフリカに集中しているのだろうか。この問題はわたしたちが考えてよいことである。

1964 年に国連貿易開発会議がジュネーブで開かれ、初めて「南北問題」の所在が明らかになったとき、植民地から独立したばかりのアジア、アフリカ、ラテンアメリカの 77 カ国が集まり「南」の

グループを結成した。このグループは、自分たちが集まり「北」の先進国と交渉を始める理由は「共通の歴史的境遇」にあるからと説明している。

つまり、これらの国々のほとんどが 18～19 世紀以来の植民地体制の下で列強に支配され、先進国に原燃料や食料を提供し、先進国の工業化を支え、その工業製品を輸入する国際分業体制の中心に置かれてきたのである。このような一方的な国際分業体制の下では、自国で工業は発達せず、輸出品に付加価値を付けることもできず、教育や科学技術を普及させることも無視され、もっぱら肉体労働で輸出を支えていた。この国際分業体制を通じて、北の国が資本を蓄積し、工業化を進め、今日の繁栄の基礎をつくることができたことには疑いの余地がないだろう。

高所得国は温帯国、中低位所得国は熱帯・亜熱帯国というきれいな線引きの根拠はこの「歴史的境遇」に発するといえる。

\*購買力平価ドルはある国である価格で買える商品が他国ならいくらで買えるかを示す交換レート。  
(西川 潤「貧困はいかにつくられるか」から。 一部表記を改めたところがある。)

(ア) 下線部(1)「二つの注意」とはどんなことか。それぞれ文末が「～こと。」(字数を含む)となるように下線部より前の内容を踏まえて、どちらも **20 字以上、30 字以内**で記述用紙に記入しなさい。その際、どちらにも「**所得**」「**豊かさ**」という二語を用いること。

(イ) 下線部(2)「世界の貧困は南の世界に集中している」とあるが、「南」のグループが指摘した「貧困」の原因である「歴史的境遇」を、筆者はどのように説明しているか。「歴史的境遇」を説明している**最も適当な箇所を 65 字以上、70 字以内**で本文中から探し、その最初と最後の**5 字ずつ**を記述用紙に記入しなさい。

(ウ) 二重線部「貧困は“つくられる”」とあるが、「南の世界」が「貧困」を改善していくためにはどんな方策をすすめて、どのようになることが望ましいのか。下線部(2)以降に示される筆者の具体的な考え方を踏まえ、次の条件を満たし、**80 字以上、100 字以内**で記述用紙に記入しなさい。

#### 条件

「**南の世界は**」(字数を含む)で書き始め、「**科学技術**」「**工業化**」「**肉体労働**」「**付加価値**」という四つの表現(用いたことが明らかになるようにその表現には下線をつけること。)をすべて用いること。



問5 陽子さんは、英語の授業でレポートを作成するために、インターネットでモザンビーク (Mozambique) について調べていたところ、チャリティー・ボール (Charity Ball) という組織 (organization) の創設者 (founder) であるイーサン・キング (Ethan King) さんに関する記述を見つけました。次の英文は、陽子さんが読んだものです。これを読んであとの問いに答えなさい。

Ethan King is fifteen years old. He is the founder of Charity Ball. It is an organization that \*raises money to \*hand-deliver soccer balls to children in \*developing countries. The organization needs twenty-five \*dollars to hand-deliver one soccer ball. The idea came from a trip Ethan took with his father—who \*repairs water wells in poor African villages—to Mozambique when he was ten years old.

Ethan and Charity Ball have given more than 4,000 soccer balls. They also worked together with \*Serbian soccer star \*Neven Subotić to make a soccer \*tournament for children in Mozambique.

\*Interviewer: You brought your soccer ball on the trip to Mozambique when you were ten. How did the children there \*react to seeing it?

Ethan: When we got there, my father repaired water wells in some villages. When we stopped, I \*pulled out my soccer ball from home. It was so \*crazy because fifty-one hundred children came to us and wanted to play with my soccer ball. They never touched a real soccer ball before I brought my soccer ball. They used \*trash bags \*wrapped up in twine. So they looked very happy and excited when they got the ball.

Interviewer: You \*ended up giving the ball to some of the children. What \*happened after you returned home?

Ethan: I needed about a month to start the \*project. At the time, my idea was a one-year project \*dedicated to getting soccer balls for children. My father's organization travels to Africa two or three times a year. So my plan was to try to get some soccer balls together for him to bring to Mozambique when he went there. But it became something bigger.

Interviewer: Was it easy for you to \*convince companies and people to raise money?

Ethan: It was interesting because the first phone call I made was to a soccer shop in \*Tennessee. I said to the \*manager that \*I'd shopped there before and about my idea: "I'm going to get soccer balls for children around the world." I asked, "Would you like to help us?" He answered, "No. That's a cool idea, but we are not really interested in doing that now." I thought getting soccer balls for some children was easy before I called him. But after talking with him, I found it was going to be hard. That was a learning experience for me.

Interviewer: Charity Ball hand-delivers the balls. Why?

Ethan: When we began, we said, "We don't want to \*ship the balls because we often had

a lot of problems in the \*past with \*customs, \*especially in developing countries.” We really want to know the balls actually reached the children’s hands. On the website, we have a \*whole gallery of soccer balls that we have hand-delivered. People who \*donate money to us want to know where it is going. One of my favorite parts of Charity Ball is to receive the pictures of children who got soccer balls and to see the smiles on their faces.

Interviewer: How does a real soccer ball \*affect the children?

Ethan: I think soccer is a \*universal language. People in the world know what soccer is. Especially in Africa, these children really \*connect with soccer. They need a ball to \*make something happen.

Interviewer: How did the tournament happen?

Ethan: Serbian soccer star Neven Subotić sent me an e-mail and we started thinking about what to do. We \*came up with the idea of doing a soccer tournament for children in Mozambique. \*Instantly, 16 teams \*signed up and they were ready to play soccer. This means that about 350 children joined the tournament. A company donated soccer balls, and every child in the tournament got their \*own ball and uniform. I think for the \*final, everyone from the village came out to watch the game because there were so many people there. It was such a cool experience for them and also for me.

(<http://www.timeforkids.com/>より 一部表記を改めたところがある。)

\*raises ～:～を集める hand-deliver ～:～を手渡す

developing countries: 発展途上国 dollars: ドル (アメリカ合衆国などの貨幣単位)

repairs water wells: 井戸を修理する Serbian: セルビア人の

Neven Subotić: ネヴェン・スボティッチ (人名) tournament: トーナメント

Interviewer: 訪問記者 react: 対応する pulled out ～:～を取り出した crazy: 異常な

trash bags: ゴミ袋 wrapped up in twine: 麻糸でくるまれた

ended up ～ing: ついに～することになった happened: 起きた project: 企画

dedicated to ～:～にささげられた convince ～to …:～に説得して…させる

Tennessee: テネシー (アメリカ合衆国南東部の州) manager: 経営者

I’d shopped: 買い物をしたことがあった ship ～:～を発送する past: 過去

customs: 税関 especially: 特に whole gallery: 全ギャラリー

donate ～:～を寄付する affect ～:～に影響する universal: 万人に通じる

connect with ～:～と結びつく make ～ happen: ～を起こさせる

came up with ～:～を思いついた Instantly: 直ちに

signed up: 参加登録した own: 自身の final: 決勝戦



- (エ) 本文を読んだ陽子さんが、英語の授業でレポートを書きました。本文の内容に合うように、  
[ A ]～[ D ]の中に入れるのに最も適するものを、あとの1～4の中からそれぞれ一つ  
ずつ選び、その番号を書きなさい。

I read about Ethan King on the Internet last week. He is the founder of Charity Ball, an organization which raises money [ A ]. I am surprised to know that he started the organization before he became a junior high school student. He is still very young. He is almost as old as I am!

When he first visited Mozambique with his father, Ethan found children there didn't have a real soccer ball. They looked very happy and excited when they got a real one from him. Then, he decided to start his project. First, he called a manager of a soccer shop in Tennessee and asked for his help, but the manager said that he [ B ]. Before calling him, Ethan thought it was easy to collect money from people, but he soon found it would be difficult. It was a learning experience for him.

After such an experience, Ethan was able to raise money from many people. He thinks [ C ]. People in the world know what soccer is. For children in Mozambique, only a ball is needed to make something happen.

Then Ethan started a soccer tournament for children in Mozambique with Serbian soccer star Neven Subotić. For the final, everyone from the village came out to watch the game. Ethan says [ D ].

- [ A ] 1. to hand-deliver soccer balls to children  
2. to ship soccer balls to developing countries  
3. to buy soccer balls for people living in Tennessee  
4. to take soccer balls to Mozambique from Japan
- [ B ] 1. would not like to talk with Ethan  
2. would not help Ethan  
3. would not sell balls to Ethan  
4. would not lose Ethan
- [ C ] 1. music is important to play soccer  
2. raising money is a lot of fun  
3. living in a foreign country is interesting  
4. soccer is a universal language
- [ D ] 1. it was a wonderful time to watch the game with his father  
2. it was an exciting game because Neven Subotić played in it  
3. it was a cool experience for them and for himself  
4. it was a company which donated uniforms to Charity Ball

(問題はこれで終わりです。)